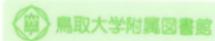


倉吉市内遺跡分布調査報告書11



0050294602

平成12年度

倉吉市教育委員会

0.2
ar
08)



序

この報告書は、平成11年度及び12年度に、開発事業に伴い事前に実施した試掘・確認調査の記録であります。

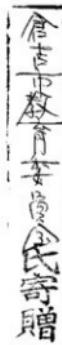
鳥取県の中央部に位置する倉吉市は、豊かな自然と風土の中で育まれた数多くの優れた文化財を今日に伝えており、中でも埋蔵文化財は県内でも有数な包蔵地として知られています。倉吉市教育委員会では、こうした埋蔵文化財を守り、開発事業との共存を図るため、各開発機関と協議を重ね、さらには地元の方々のご理解とご協力を得ながら、文化財保護行政を進めているところです。

今回実施した調査は、トレンチやグリッドといった小面積の調査でしたが、遺跡の有無とそのひろがりや性格を把握するという所期の目的を果たし、保存対策を講ずることができました。発掘調査の内容としては不十分であり、満足すべきものではありませんが、埋蔵文化財行政の資料として活用願えれば幸いに存じます。

最後に、調査にご協力をいただきました市民の方々をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表するものであります。

平成13年3月

倉吉市教育委員会
教育長 足羽一昭



例　　言

- 1 本報告書は、平成11年度及び12年度に倉吉市教育委員会が、国・県の補助を受けて実施した分布調査の記録である。分布調査は、トレーナーによって遺跡の有無・範囲・性格を調査したものである。
- 2 発掘調査団は次のような組織・編成である。

團　　長 足羽 一昭（倉吉市教育委員会教育長）	
調査委員 名越 勉（倉吉市文化財保護審議会会長）	
調査員 根鈴 煙雄（倉吉博物館主任学芸員）	森下 哲哉（文化財係主任）
根鈴智津子（文化財係主任）	加藤 誠司（文化財係主任）
岡本 智則（文化財係主事）	岡平 拓也（文化財係主事）
調査補助員 山根 雅美・松田 恵子	
事務局 波田野頼二郎（教育次長 12年9月まで）	景山 敏（教育次長 12年10月から）
眞田 康幸（文化課課長）	
中井 寿一（文化課課長補佐 12年）	渡辺 蜂寿（文化課課長補佐 13年）
藤井 晃（文化財係係長）	藤井 敬子（文化財係主任）
山崎 昌子（文化財係主事）	金田 朋子（臨時職員）
内務整理 泉 美智子・世浪由美子・松鶴あつ子・竹嶽 晓子・山本 錦	
妻藤 君江（11年度）・米原 満（12年度）	
- 3 地形図は、平成11年修正測量の1:2,500国土基本図 倉吉市平面図を使用し、方位は国土座標第V座標系で示した。
- 4 発掘資料は倉吉博物館で保管している。

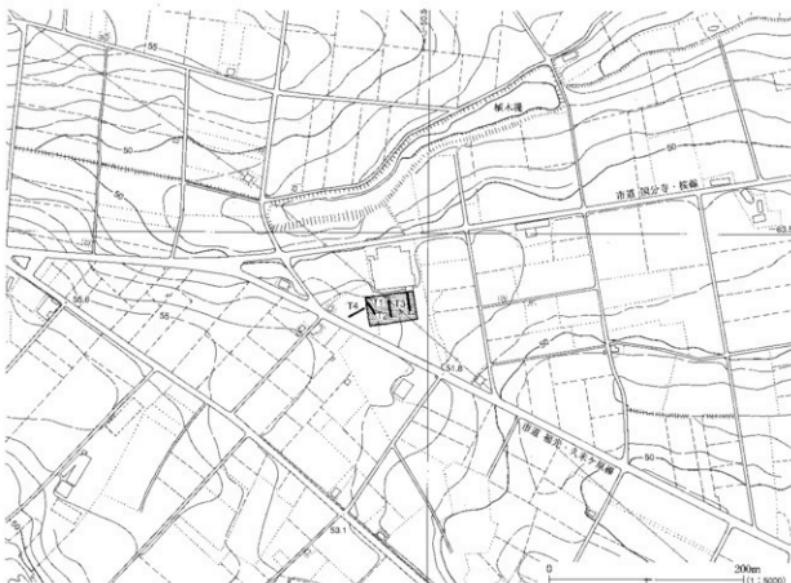
目　　次

1 横田地区（福田寺遺跡3次調査）	1
2 西倉吉町地区	2
3 和田屋喜山地区（和田遺跡群屋喜山遺跡）	3
4 人谷茶屋地区（イザ原遺跡）	5
5 広瀬地区	6
6 和田沼地区	7
7 大原庵寺（第7次）	8
8 谷・津原地区（高原遺跡）	10
9 和田・不入岡地区（沢ベリ遺跡3次調査）	11
10 下米積地区（船沖遺跡）	12
11 みどり町地区（宮ノ平ル遺跡）	14
12 大谷水上地区	15
13 富海地区	16
14 和田西ノ谷地区（和田遺跡群西ノ谷遺跡）	16
15 国府春日地区（国分寺北遺跡2次調査）	18
16 大谷向野地区（向野遺跡2次調査）	21
17 国府古神宮地区（伯耆国府関連遺跡第1次調査・古神宮地区）	23
18 国府植木場地区	24
19 勝地区（高鼻遺跡）	25

1 横田地区（福田寺遺跡 3次調査）

- 調査地点 倉吉市横田字福田寺998-4、東福田寺1054-2・1054-4・1054-5
- 調査期間 平成11年4月20日～平成11年5月13日
- 調査契機 鳥取中央農業協同組合横田物流センター増設工事に伴う予備調査
- 調査方法 トレンチによる発掘調査
- 調査面積 152m²
- 調査担当 谷平拓也
- 調査概要 調査は、事業予定地の丘陵尾根に直交するように3本のトレンチ、平行するように1本のトレンチを設定して行った。調査の結果、トレンチ2・3では方形に巡ると考えられる構を検出した。またトレンチ3からは弥生土器が面的に出土した。以上の結果、調査地の北東約50mに位置する福田寺遺跡の遺跡範囲内に含まれるものと判断される。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×16.5	33	溝・ピット	弥生土器・土師器・須恵器・磨石・四石
2	2×19.5	39	溝	弥生土器
3	2×20	40	溝	弥生土器・須恵器
4	2×20	40		磨石・四石



2 西倉吉町地区

調査地点 倉吉市西倉吉町字西倉吉16-1

調査期間 平成11年4月21日～平成11年5月14日

調査契機 国有財産売却事業に伴う予備調査

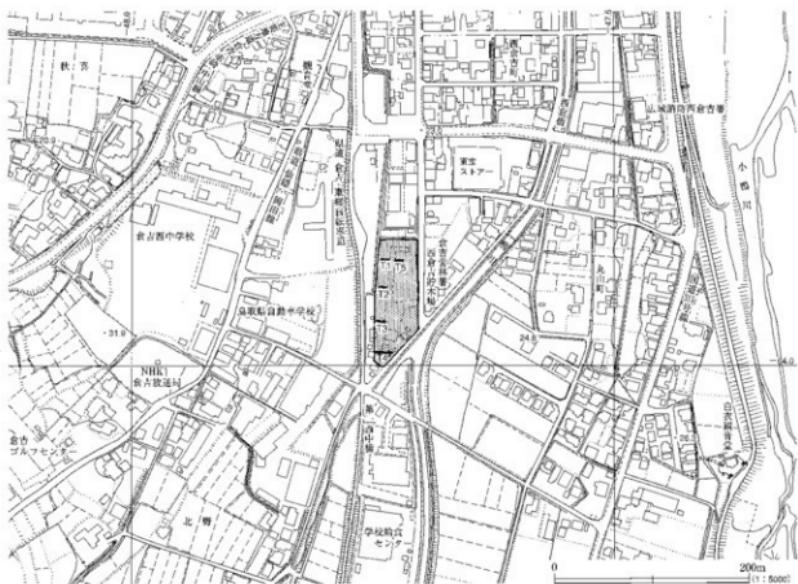
調査方法 ドレンチによる発掘調査

調査面積 113m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は、事業予定地内に5本のドレンチを設定して実施した。調査の結果、各ドレンチで旧倉吉営林署の造成と客土を確認し、大きな擾乱があることが判明した。またドレンチ1・2・5では擾乱層の下から旧水田を確認した。この水田は断面により確認したものの、水田層から近代・現代の陶磁器や、須恵器・土師器などが出土し、営林署が建設された当時のものと考えられる。この水田以下では構造は確認できず、遺跡は存在しないと判断される。

ドレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×9	18		須恵器・陶器・磁器
2	2×9	18		上鉢部・須恵器・陶器
3	2×10.5	21		土師器
4	2×18	36		陶器・磁器・五輪塔
5	2×10	20		土師器・須恵器・陶器・磁器



3 和田屋喜山地区（和田遺跡群屋喜山遺跡）

調査地点 倉吉市和田屋喜山610・611・623・634-1・634-2・635-1・636-1・637・641-5・642-1・646・715-1・715-3・715-4・715-15・717-1・717-5・717-8・717-10~14・718・718-2・718-11・718-18~20・718-22・718-23・719-1・719-5・719-8・719-11・720・736-1~3・737-1~3・738-5、寺谷字尻腹448-2・465-1・465-2・462-1・463・464・471

調査期間 平成11年5月20日~平成11年8月5日

調査契機 県営高付加価値企業用地候補地選定に伴う予備調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 1,472m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は、候補地の丘陵尾根及び斜面、谷部分に29本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、古墳2基、弥生時代から古墳時代にかけての住居址関連造構17、溝状造構3などを確認した。また丘陵上には、従来から知られていた昭和55年調査の屋喜山9号墳など現存する古墳8基とともに新たに古墳6基を確認し、計16基の古墳の存在が明らかになった。遺物は主に弥生土器・土師器・須恵器などの出土があった。調査の結果、事業計画範囲内には以前から知られている屋喜山古墳群を含め弥生時代の集落跡など数多くの遺跡が存在しております、削られて遺跡の存在しない部分を除き事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×23.5	47	城跡	土師器
2	2×30	60	竪穴式住居・溝	弥生土器・土師器
3	2×20	40	竪穴式住居	弥生土器・土師器・砥石
4	2×28	56	古墳周溝・竪穴式住居	弥生土器・土師器・鉄製品・磨石
5	2×20	40		弥生土器・土師器・磁器
6	2×30	40	竪穴式住居	弥生土器・土師器
7	2×30	60		弥生土器・土師器・サスカイト削片
8	2×20	40		土師器
9	2×30	60	溝	弥生土器・土師器
10	2×30	60	溝	弥生土器・土師器
11	2×25	50	竪穴式住居	土師器・須恵器
12	2×20	40		土師器
13	2×20	40		土師器・陶器・磁器
14	2×20	40		土師器
15	2×20	40		弥生土器・土師器
16-1	2×9	18		弥生土器・土師器・磨石
-2	2×11	22		
17	2×30	60	土壤	弥生土器・土師器
18	2×32	64	竪穴式住居	弥生土器・土師器・須恵器・炭化物
19	2×20	40		弥生土器・土師器・炭化物
20	2×50	100	竪穴式住居	弥生土器・土師器
21	2×14.5	29		弥生土器・土師器・須恵器・陶器・鐵石・磨石
22	2×37	74	古墳周溝	弥生土器・土師器・黒曜石削片
23	2×20	40		土師器・陶器・磁器
24	2×20	40		弥生土器・土師器・須恵器

トレンチNo	規模(m)	面積(㎡)	検出構造	出土遺物
25	2×30	60	竪穴式住居	弥生土器・土師器・陶器・鉢器
26-1	2×11	22	土塁	
-2	2×10	20		
27	2×20	40		弥生土器
28	2×25	50		
29	2×40	80		弥生土器



4 大谷茶屋地区（イザ原遺跡）

調査地点 倉吉市大谷茶屋字イザ原883-85

調査期間 平成11年8月31日～平成11年9月3日

調査契機 鳥取県園芸試験場備品整備に伴う予備調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 90m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は、事業予定地に幅2mのトレンチを2本設定して実施した。調査の結果、トレンチ1（長さ25m）では古墳時代前期と考えられる竪穴式住居1棟を検出し、土師器が出土した。トレンチ2（長さ20m）は、弥生土器・須恵器が出土したが、造成時の大きな削平があり遺構は存在しなかった。このため、トレンチ1周辺は事前の発掘調査が必要である。



5 広瀬地区

調査地点 倉吉市広瀬字立木山41-2・41-5・43-1

調査期間 平成11年9月8日～平成11年9月9日

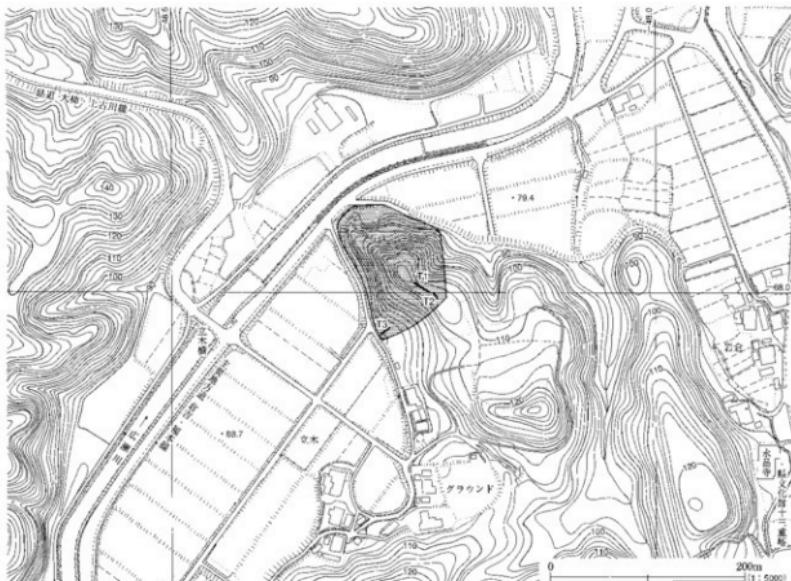
調査契機 真砂土採取に伴う予備調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 86m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は、丘陵先端部分の事業予定範囲内に幅2mのトレンチを3本設定して実施した。調査の結果、丘陵尾根部分のトレンチ1（長さ22m）・トレンチ2（長さ8m）では、表土下が直ちに地山面となり、遺構の存在は確認できなかった。遺物は少なくトレンチ1から土師器小片が出土した。また丘陵斜面のトレンチ3（長さ13m）は、畑造成時の削平があり遺構、遺物は確認できなかった。このため遺跡は存在しないと判断される。



6 和田沼地区

- 調査地点 倉吉市和田字沼⁵⁵537-2・548-1・550-1・552-1
- 調査期間 平成11年9月14日～平成11年10月8日
- 調査契機 一般国道313号北条倉吉道路（地域高規格道路北条湯原道路）整備事業に伴う予備調査
- 調査方法 トレンチによる発掘調査
- 調査面積 60m²
- 調査担当 森下哲哉
- 調査概要 調査は、事業予定地の水田に幅2mのトレンチを2本設定して実施した。調査の結果、トレンチ1（長さ20m）・トレンチ2（長さ10m）とも水の噴出が激しく、部分的な調査で終了したが、現在の水田下には場整備の痕跡が認められ、さらにその下層には草などの植物遺体混入土が比較的厚く堆積しており、湿地帯の一部であったことを確認した。遺物はトレンチ1の耕土及び床土周辺から陶器・磁器が出土した。このため遺跡の存在はないと判断される。



7 大原廃寺（第7次）

調査地点 倉吉市大原寺字ノ谷125-1・126、亀井谷口1202-1

調査期間 平成11年10月13日～平成11年11月5日

調査契機 史跡大原廃寺の範囲確認調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 110m²

調査担当 加藤誠司

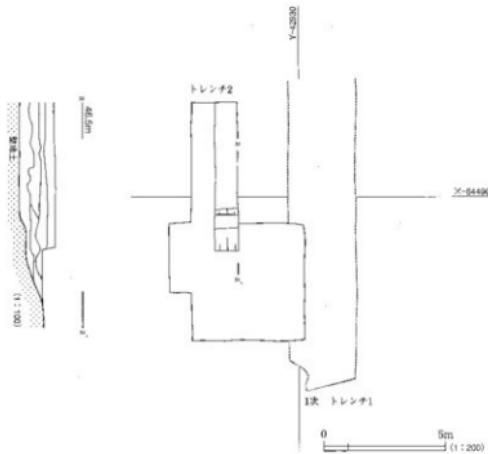
調査概要 大原廃寺は国史跡の拡大申請に向けて、これまでに実施した6次にわたる調査結果をまとめ平成10年度末に報告書を刊行した。その成果をもとに、平成11年7月文化庁の現地指導を受けた。その際、史跡拡大申請にあたっては、寺域北限の根拠が弱いとの指導があり第7次発掘調査を追加実施することになった。

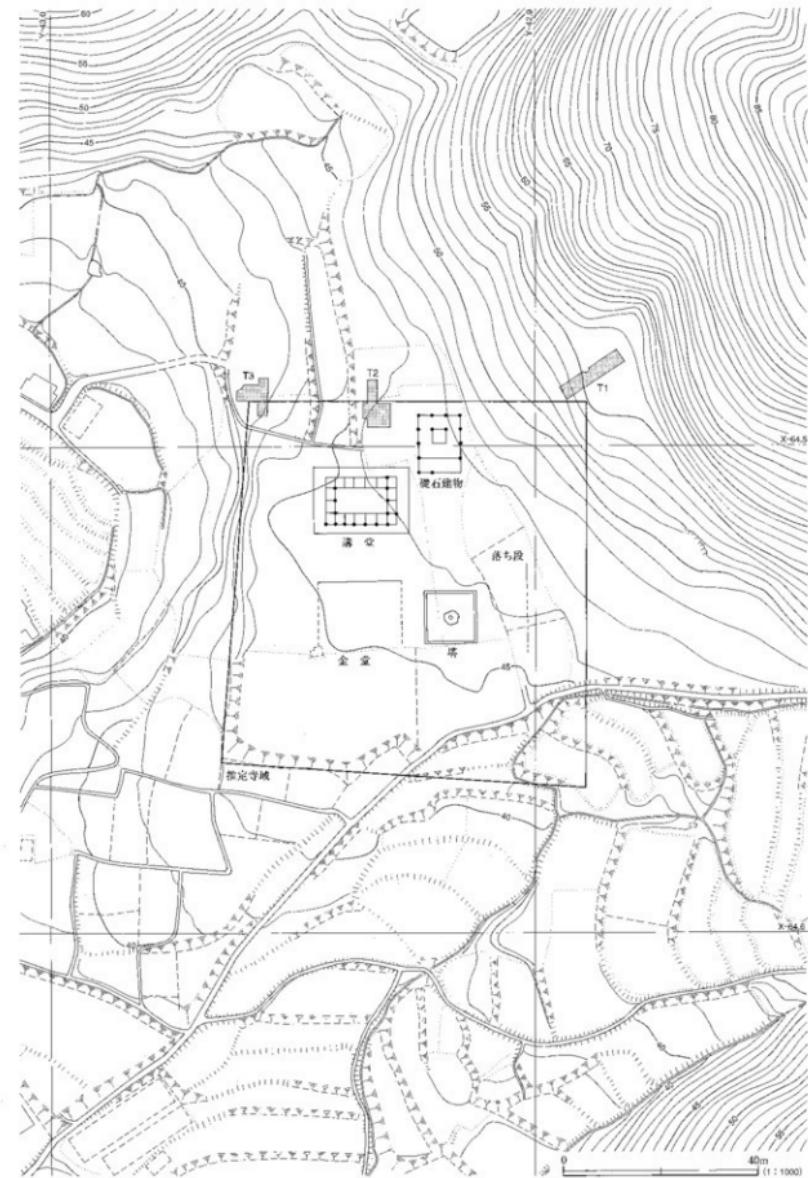
トレンチ1 丘陵中腹の推定寺域北東隅近くにあるなだらかな地形部分に、寺院に関する遺構が存在する可能性があり、トレンチを設定した。調査の結果、遺構・遺物とも全く確認できなかった。このため、なだらかな地形は寺院に関するものでないと推定される。

トレンチ2 寺域北限中央付近を発掘した結果、寺域北限と推定される段差を確認した。段差は、南から北に約0.5m落ちて、東西方向に延びる。段差の途中には南北の長さ約60cmの東西方向に延びる平坦地がある。これによって寺域北限が、これまでの推定線より約1m南になる。寺域は北辺約69m、東辺約79m、南辺約75m、西辺約74mで、南辺と西辺が主要堂塔に対して約5°東に振れる変形四角形になると推定される。

トレンチ3 推定寺域北東隅付近を発掘した。古墳時代と推定される掘立柱建物の一部を確認したが、寺域に関連する明確な遺構は確認できなかった。

遺物はトレンチ2・3から瓦（平瓦片・丸瓦片約160点）、土師器・須恵器・土師質土器皿・瓦質土器羽釜の破片が出土した。





8 谷・津原地区（高原遺跡）

調査地点 倉吉市谷字高原111・117・118・127・128・130~132、小坂152、五輪畠331-1

調査期間 平成11年11月15日~平成11年12月3日

調査契機 一般県道津原穴沢線地方特定道路整備工事に伴う予備調査

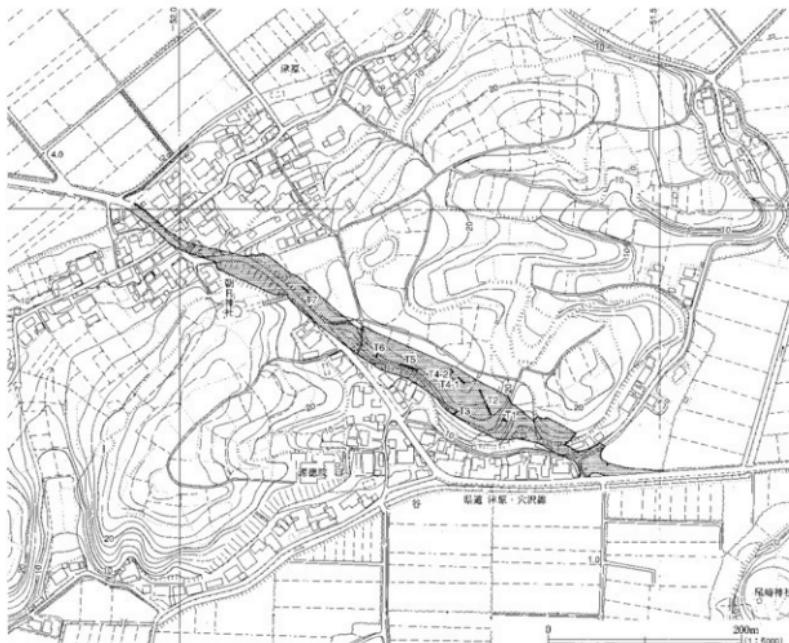
調査方法 レンチによる発掘調査

調査面積 190m²

調査担当 岡本智則

調査概要 調査は、事業予定地の丘陵尾根部分に6本、丘陵斜面に3本のレンチを設定して実施した。調査の結果、レンチ2で竪穴式住居を確認し、比較的多くの弥生土器・土師器・須恵器などの遺物を確認した。このため事前の発掘調査が必要である。

レンチ番号	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×5	10		土師器
2	2×30	60	竪穴式住居	土師器
3	2×5	10		劫鍋車
4-1	2×15	30		土師器・須恵器・陶器
2	2×5	10		
5	2×20	40		土師器・瓦質土器・炭化物
6	2×5	10		
7	2×10	20		弥生土器・土師器・石斧



9 和田・不入岡地区（沢ベリ遺跡 3次調査）

調査地点 倉吉市和田字野畠 346-1・350・350-4、不入岡字弥次兵衛96-1、沢ベリ828-5

調査期間 平成11年12月6日～平成11年12月13日

調査契機 主要地方道倉吉由良線緊急地方道路整備工事に伴う予備調査

調査方法 レンチによる発掘調査

調査面積 77m²

調査担当 岡本智則

調査概要 調査は、県道沿いの丘陵部分に4本のレンチを設定して行った。調査の結果、レンチ4で竪穴式住居を検出し、多くの弥生土器が出土した。このためレンチ4周辺は事前の発掘調査が必要である。

レンチ番号	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×8.5	17		上部器・須恵器
2	2×10	20		弥生土器・土師器・須恵器
3	2×10	20		土師器
4	2×10	20	竪穴式住居	弥生土器・土師器・石斧・敲石・炭化物



10 下米積地区（船沖遺跡）

調査地点 倉吉市下米積字船沖83・93・94-1・95・96・97・98-1・211-1・211-2、^{下米積}^{上乳母}ヶ谷912-1・913-919・939-941・943-945・947・948、上米積字船沖73・74・85・86・87-1・92・99-1・101・102・103-1・104-1、横枕1053、下福田字大田1012・1015・1017・1019-1・1019-2・1020-1・1021・1022-1-3・1024・1037-1-3、泉谷1034、ソリ田1329・1330-1・1330-2・1331、壱町田1349・1350・1351・1352-1・1352-2・1352-4

調査期間 平成11年12月15日～平成12年1月12日

調査契機 県営久米ヶ原地区畠地帯総合整備事業に伴う予備調査

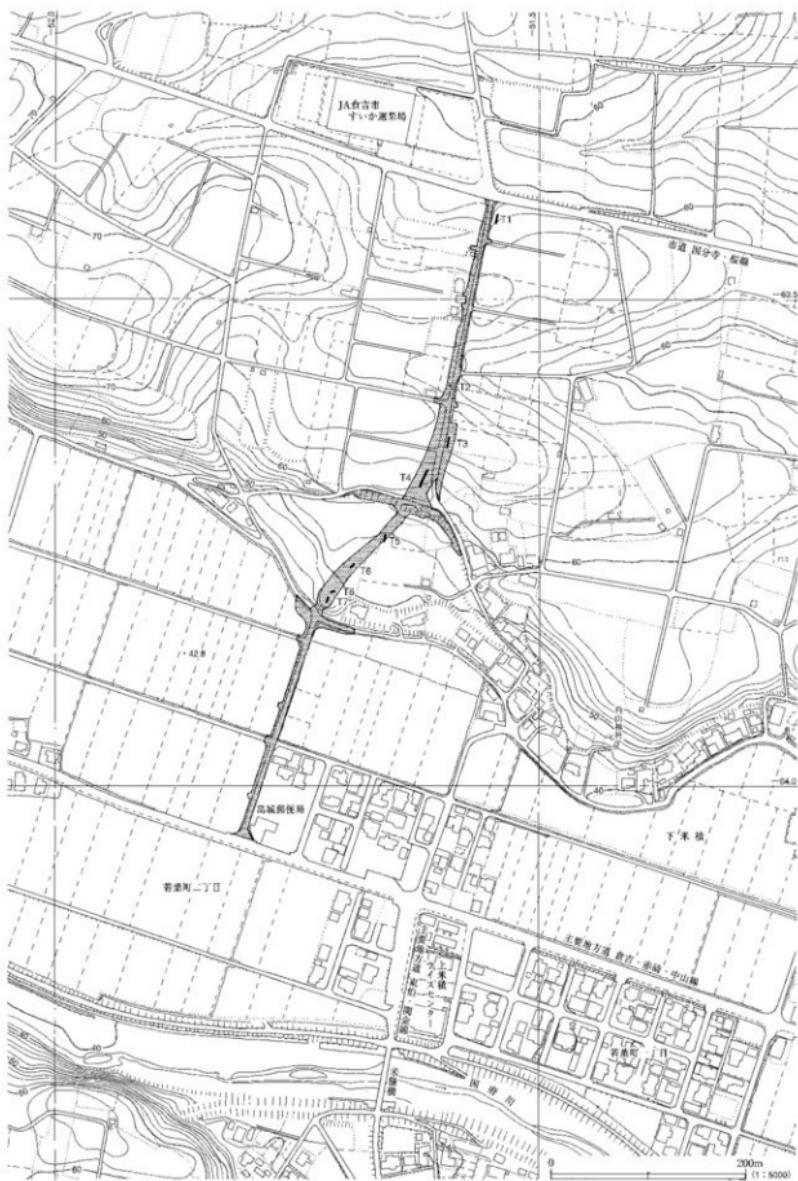
調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 144m²

調査担当 岡平拓也

調査概要 調査は、事業予定地内に8本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、トレンチ3で溝、トレンチ5・6で土壤を検出し、弥生土器や土師器が出土した。遺構を確認したトレンチ周辺には遺跡が存在するため事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo.	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×10	20		土師器、須恵器、陶器、石器
2	1×2	2		
3	2×13	26	溝	土師器
4	2×20.5	41		土師器、近代瓦、麻呂、石錐、磨石
5	2×8	16	土壤	弥生土器、土師器、土師質土器、陶器、麻呂、鉄製品 石錐、磨石、絆縫石、焼石、炭化物
6	2×7	14	土壤	土師器、須恵器
7	2×7	14		土師器、須恵器、土師質土器、石錐、磨石
8	1×6	6		土師器、須恵器
	1×5	5		



11 みどり町地区（宮ノ平ル遺跡）

調査地点 倉吉市みどり町字宮ノ平ル3564-1

調査期間 平成12年4月28日～平成12年5月11日

調査契機 昔成学園整備事業に伴う予備調査

調査方法 トレンチ・ボーリングによる発掘調査

調査面積 115m²

調査担当 加藤誠司

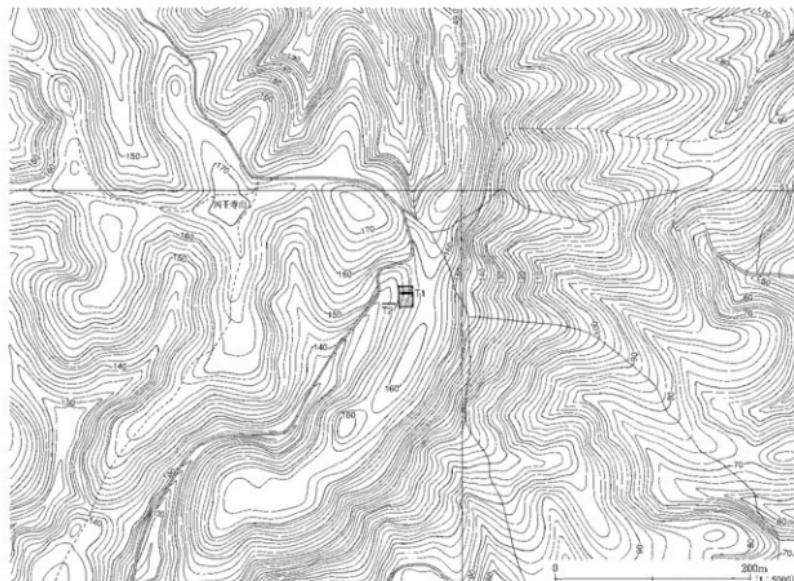
調査概要 調査は、旧昔成学園の建物の間に5本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、南側のトレンチ1～3周辺は、以前の県立倉吉商業高校建設時の造成によって削平されており、遺跡は存在していないと判断される。北側のトレンチ4では、中世と推定される1条の溝状遺構を確認した。溝状遺構は長さ約2.7m分をトレンチ内で確認し、幅約50～70cm・深さ約30cmで、北東から南西方向に直線的に延びてさらに西に曲がる。トレンチ5ではボーリング調査によって、造成時の客土が厚く堆積していることが判明した。遺物はトレンチ2・4・5から土師器が出土している。このことからトレンチ4周辺には遺跡が存在していると思われ、削平等の工事を行う場合には事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	1×5	5		
2	2×3	10		土師器
3	2×20	40		
4	2×13	26	溝状遺構	土師器・土師質土器
5	2×17	34		土師器



12 大谷水上地区

- 調査地点 倉吉市大谷字水上976-2^{アゲハシ}
- 調査期間 平成12年4月28日～平成12年5月11日
- 調査契機 中国セラーラー電話株式会社倉吉西局建設工事に伴う予備調査
- 調査方法 トレンチによる発掘調査
- 調査面積 43m²
- 調査担当 森下哲哉
- 調査概要 調査は、四王寺山の最高部から東に派生した南北に延びる丘陵尾根の西側斜面で、標高150m付近に2本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、トレンチ1（幅2m・長さ11m）、トレンチ2（幅1.5m・長さ14m）とも遺構は検出しなかった。出土遺物はトレンチ2で土師器が出土したが流入と思われる。このため遺跡は存在しないと判断される。



13 富海地区

調査地点 倉吉市富海字南平林926-1・926-2

調査期間 平成12年5月22日～平成12年5月29日

調査契機 宅地造成計画に伴う予備調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 80m²

調査担当 加藤誠司

調査概要 調査は、事業予定地に幅2m・長さ20mのトレンチを2本設定して実施した。調査の結果、トレンチ1・2ともは場整備時の客土が盛り土されていることが確認できた。さらにその下層には、富海川の流路による砂と灰色粘質土が堆積していた。遺構・遺物とも確認できず、遺跡は存在しないと判断される。



14 和田西ノ谷地区（和田遺跡群西ノ谷遺跡）

調査地点 倉吉市和田字西ノ谷607-1・608-1・609-1・610・611・738-1～5・739・740・740-1～10・742-1・743-1・743-2・744・745・747-2・748-1・748-2

調査期間 平成12年5月22日～平成12年7月28日

調査契機 県常高付加価値企業用地候補地選定に伴う予備調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 793m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は、候補地の丘陵尾根を中心に20本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、弥生時代後期から古墳時代の竪穴式住居9棟を確認し、ほとんどのトレンチから土器が大量に出土した。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチ番号	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	2×30	60		
2	2×30	60	土器	上部器
3	2×16	32		土器
4	2×12	24	竪穴式住居	上部器・須恵器
5	2×13	26	竪穴式住居	土器
6	2×15	30		上部器
7	2×34	68	竪穴式住居	弥生土器・土器
8	2×22	44	古墳周溝	土器
9	2×16.5	33	竪穴式住居	土器・須恵器
10	2×27	54		上部器
11	2×28	56	竪穴式住居・土壤	弥生土器・土器
12	2×10	20		上部器
13	2×15	30	土壤	土器・須恵器
14	2×13	26		上部器
15	2×19	38	竪穴式住居	土器・須恵器
16	2×23	46		土器・須恵器
17	2×20	40	竪穴式住居	土器
18	2×17	34		土器
19	2×15	30		上部器
20	2×28	42		土器・須恵器



15 国府春日地区（国分寺北遺跡 2 次調査）

調査地点 倉吉市国府字春日1409^{ナカガタ}

調査期間 平成12年6月30日～平成12年8月19日

調査契機 荒畠の更地化に伴う予備調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 593m²

調査担当 関平拓也

調査概要 調査地は、国指定史跡伯耆国分寺跡の北側に接する畠地で、同じく国指定史跡である伯耆国庁跡・法華寺畠遺跡が連なる丘陵（通称久米ヶ原丘陵）の尾根部分である。今回の調査地の東側に隣接する地区は、昭和49年度に法華寺畠遺跡の調査とあわせてトレンチによる発掘調査が行われ、奈良・平安時代の掘立柱建物7棟、南北溝1条、道路状遺構1条などが検出されている。

今回は調査区内にトレンチを7本設定し、調査を行った。調査地の基本的層序は、上から順に耕作土、黒色土（クロボク）、暗褐色土、褐色土（ソフトローム）である。遺構検出面は褐色土上面である。数年前まで果樹園として利用されており、擾乱が遺構検出面にまで達していた部分もあった。以下検出した主な遺構の概要を述べる。なお、遺構名は昭和49年度の調査にならった。

掘立柱建物（SB058）

調査地の西側で検出した桁行7間（16.8m）×梁行2間（4.2m）の東西棟である。柱間は桁行が2.4m、梁行は2.1mである。南側及び東側の柱列を断ち割って断面観察を行った結果、建物廃絶後柱を抜き取っていることが分かった。柱穴からは土師器・須恵器・瓦などが出上しているがいずれも小片である。

南北溝（SD051）

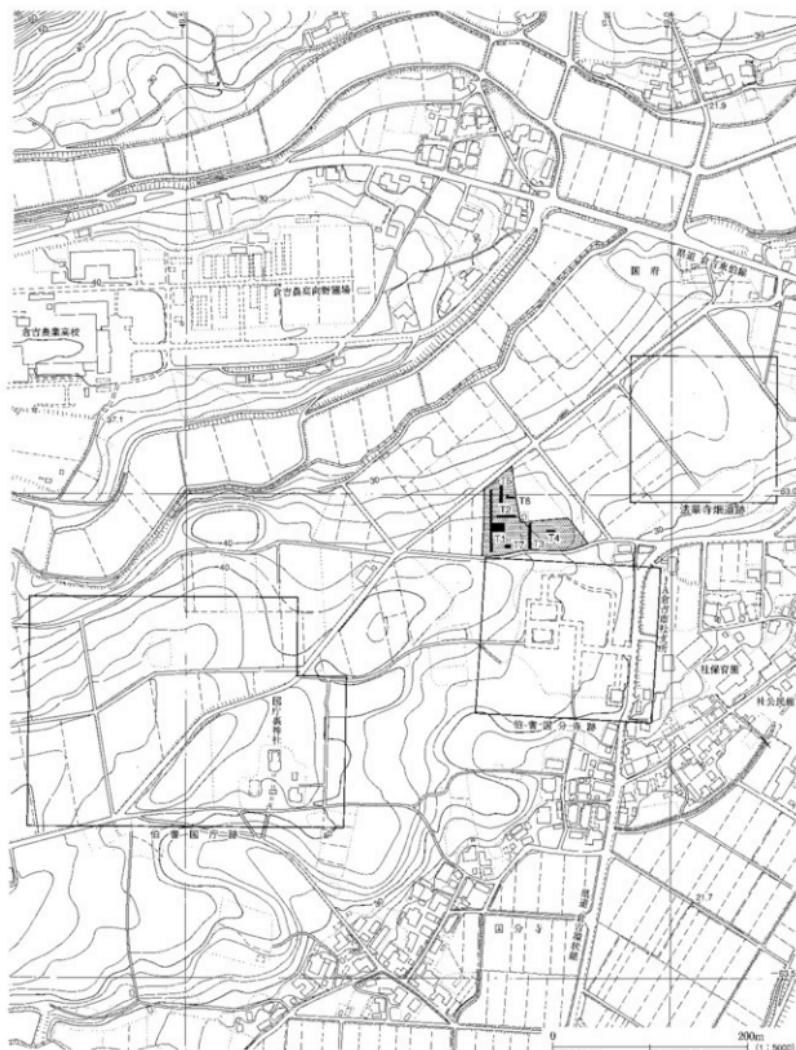
昭和49年度に検出されたSD051の南延長部分を3ヶ所で確認した。各トレンチで部分的に完掘し、断面観察を行った。その結果、1条と考えられていたSD051はほぼ同じ位置で、角度をわずかに変えながらSD051AからSD051Cへ3回の作り替えが認められた。SD051の南端は国分寺の北限溝の北端から約12m離れている。遺物は特に南端部分（トレンチ7）で土師器・須恵器・瓦が多く出土した。またトレンチ2・7のSD051埋土から墨書き土器が出土した。

小結

掘立柱建物と溝との方位・切り合い関係から、

- ①堀立柱建物SB051、SB053、SB055の3棟と、南北溝SD051A
- ②SB052、SB056、SB057の3棟と、SD051B
- ③SB054、今回検出のSB058の2棟と、SD051C

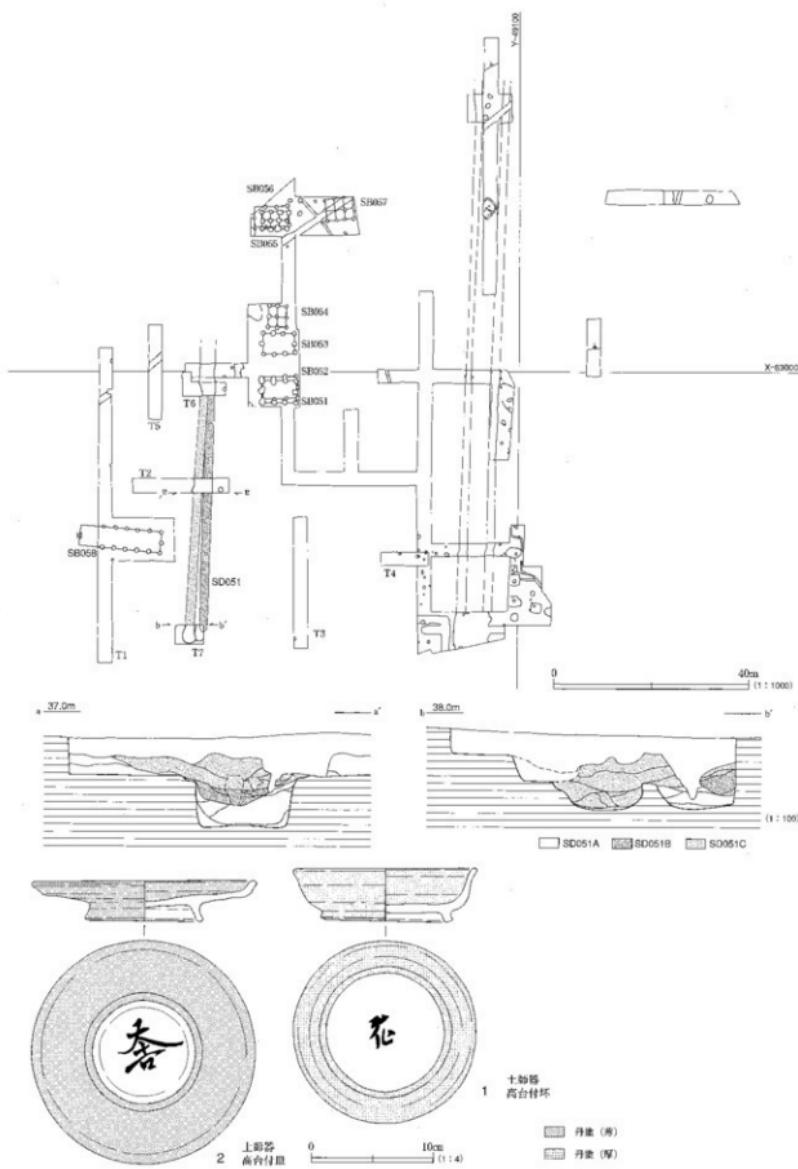
の3段階の変遷が考えられる。それぞれの時期については良好な出土遺物がなく不明であるが、SD051内の出土遺物から下限をおおまかに伯耆国庁第2段階と考えることができる。遺跡の性格は昭和49年度概報では南に隣接する国分寺、東に隣接する法華寺畠遺跡に関連した性格が想定されており、遺跡は建物群を画すると考えられていたSD051よりも西側に広がる



ことが明らかになった。

参考文献

- 岡本東三・佐藤興治他 『伯耆国分尼守・官衙跡発掘調査概報』 倉吉市教育委員会 1975
- 巽 淳一郎他 『伯耆国跡発掘調査概報（5・6次）』 倉吉市教育委員会 1979

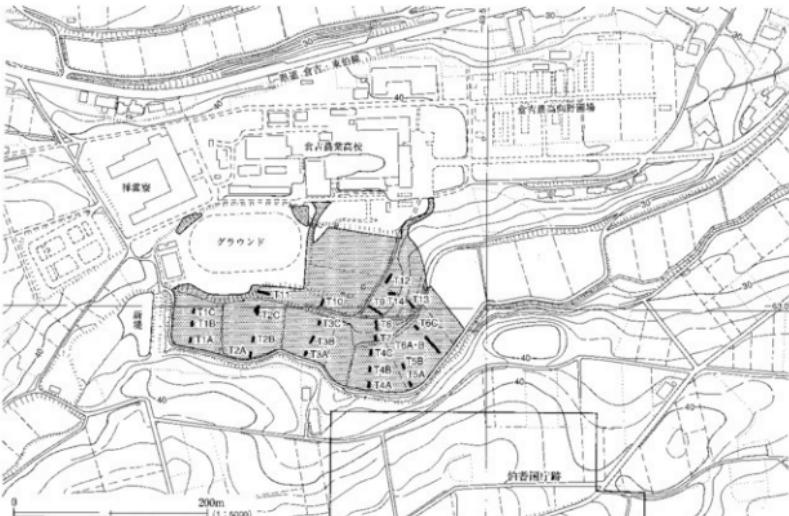


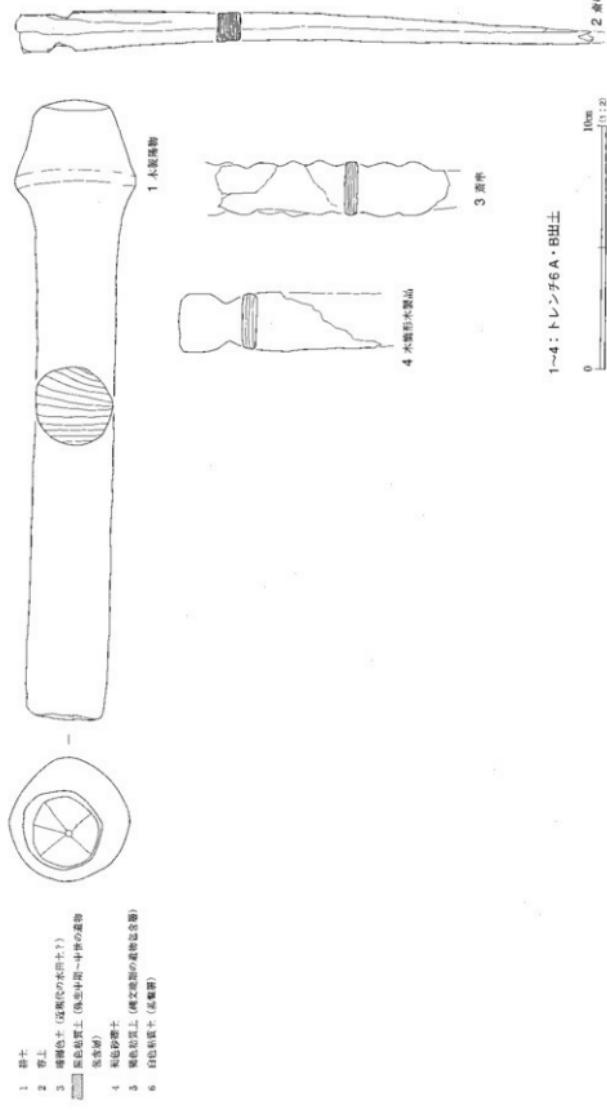
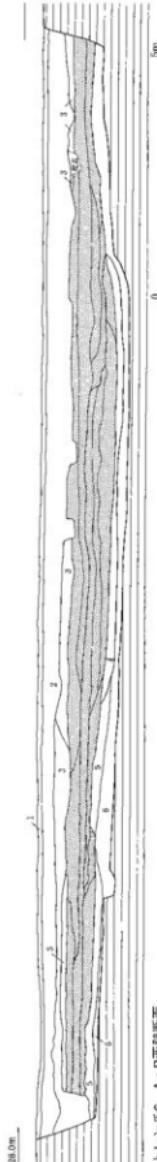
16 大谷向野地区（向野遺跡 2 次調査）

調査地点	倉吉市大谷字 向野135-1~3・153-1・153-2・154-1、 ^{ひらがな} 菅掛135・152、 ^{ひらがな} 西三谷124・1353~1359
調査期間	平成12年8月17日~平成12年10月11日
調査契機	鳥取県倉吉農業高校グラウンド拡張に伴う予備調査
調査方法	トレンチによる発掘調査
調査面積	442m ²
調査担当	岡平拓也
調査概要	調査地は鳥取県立倉吉農業高等学校南側の丘陵および谷部分である。谷の南側には国指定史跡伯耆国庁跡が隣接する。

調査は谷部分に16本、丘陵部分に8本のトレンチを設定し行った。谷部分の基本的層序は上から、水田耕作土、耕地整理時の客土、黒褐色土（近・現代遺物包含層）、黒色粘質土（弥生中期～中世の遺物包含層）、褐色砂礫土、褐色粘質土（縄文時代晚期の遺物包含層）、白色粘質土（基盤層）である。その内、黒色粘質土から褐色粘質土上面にかけて、溝を4条検出した。溝の時期は出土遺物から平安時代、古墳～奈良時代、弥生時代中期、縄文時代晚期と考えられる。平安時代以前と考えられる層位（黒色粘質土下層）から木製陽物・曲物・斎申・木片（板状・棒状など）などが出土している。溝及び出土遺物は南に隣接する伯耆国庁との関連が注目されるが、今回の調査では溝には人工的な痕跡はみられず、谷部分では国庁と直接関連するような遺構は確認できなかった。

丘陵部分の層序は耕作土、黒褐色土、黄褐色砂質土（ホーキ火山砂層）で、部分的には黒褐色土が既に削平されている部分もあった。丘陵部分では落し穴2基、段状遺構1などを確認した。





17 国府古神宮地区（伯耆国府関連遺跡第1次調査・古神宮地区）

調査地点 倉吉市国府字古神宮856・856-2・857-1・857-2・858・859-1・859-2・861

調査期間 平成12年8月18日～平成12年9月8日

調査契機 個人の宅地造成に伴う予備調査

調査方法 トレンチによる発掘調査

調査面積 74m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は、事業予定地内に2本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、トレンチ2の表土下約1.2mで遺構面を確認し、伯耆国分寺630型式軒丸瓦や土師器壊が出土した土壠を確認した。この遺構面は事業予定地全域に広がる様相を呈しており、出土遺物から史跡伯耆国府跡に間連する遺跡が存在すると判断される。このため事前の発掘調査が必要である。

トレンチ名	廣幅(m)	面積(m ²)	検出 遺構	出 土 遺 物
1	2×12	24		土師器・須恵器
2	2×25	50	土壠	土師器・須恵器・軒丸瓦（伯耆国分寺630型式）



18 国府植木場地区

- 調査地点 倉吉市国府字植木場 983・984・985・1966・1967・1970
- 調査期間 平成12年9月11日～平成12年10月3日
- 調査契機 JA鳥取中央育苗センター造成工事に伴う予備調査
- 調査方法 レンチによる発掘調査
- 調査面積 460m²
- 調査担当 森下哲哉
- 調査概要 調査は、事業予定地内に幅2m・長さ50m（レンチ3のみ30m）のレンチを5本設定して実施した。調査の結果、畑造成時の削平が著しく、遺構・遺物とも確認できなかった。このため遺跡は存在しないと判断される。



19 鋸地区（高鼻遺跡）

調査地点 倉吉市鋸字高鼻74-2

調査期間 平成12年10月17日～平成12年10月27日

調査契機 個人の農地造成に伴う予備調査

調査方法 レンチによる発掘調査

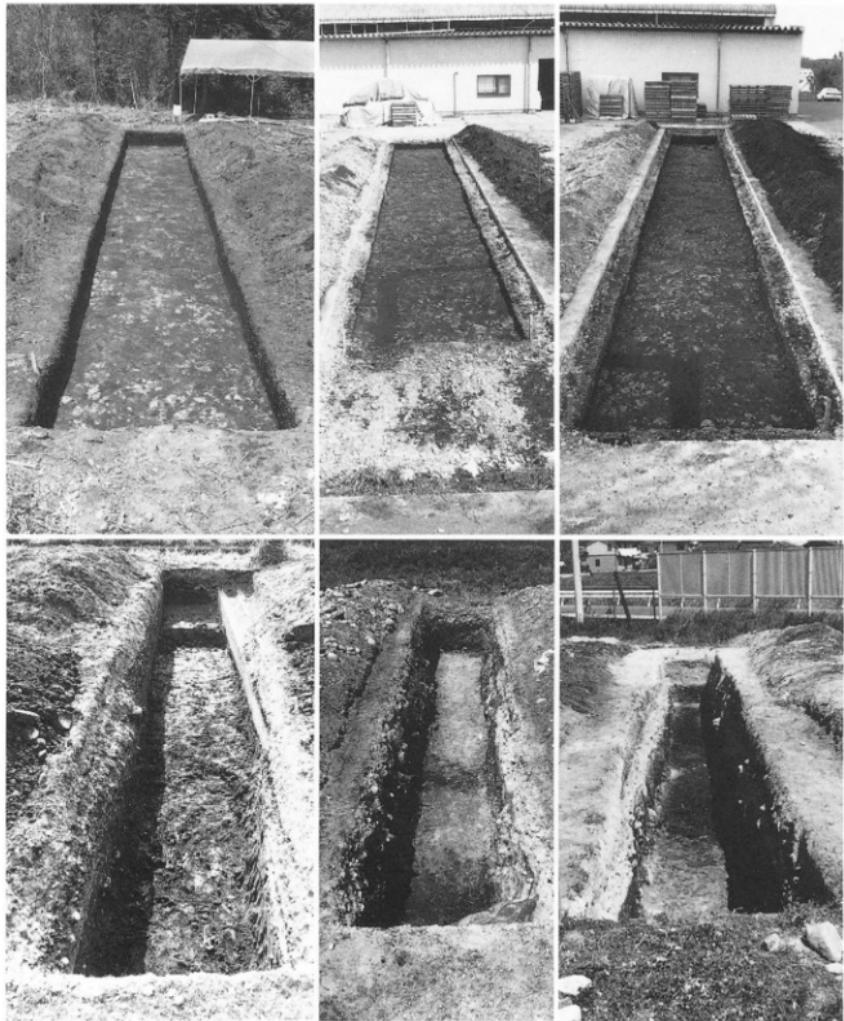
調査面積 71m²

調査担当 森下哲哉

調査概要 調査は、事業予定地内の丘陵尾根に2本のトレンチを設定して実施した。調査の結果、果樹園造成時の削平を受けてはいるものの、トレンチ2で古墳の周溝を確認した。遺物は出土しなかったが、古墳が存在すると判断され、事前の発掘調査が必要である。

トレンチNo	規模(m)	面積(m ²)	検出遺構	出土遺物
1	1.5×20	30		
2	2×17	34	古墳周溝	
括弧→		7	古墳周溝	



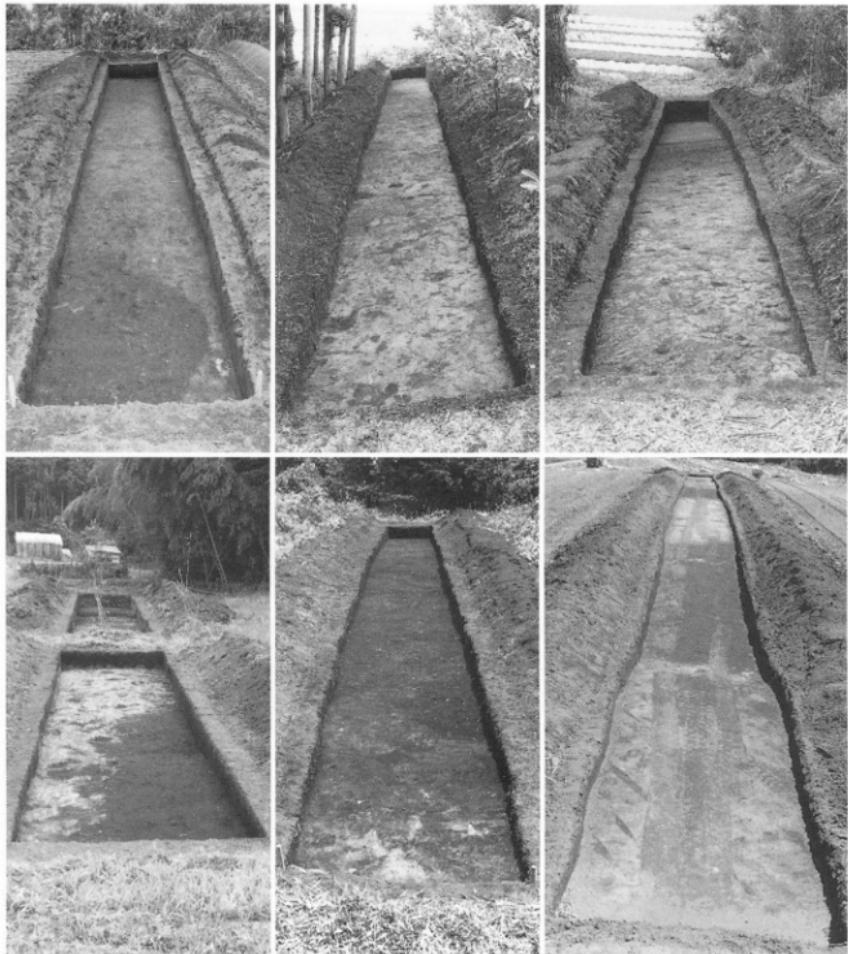


横田地区△トレンチ1（北西から）
西倉吉町地区マトレンチ2（東から）

△トレンチ2（南から）
▽トレンチ3（東から）

△トレンチ3（南から）
▽トレンチ4（西から）

図版 2

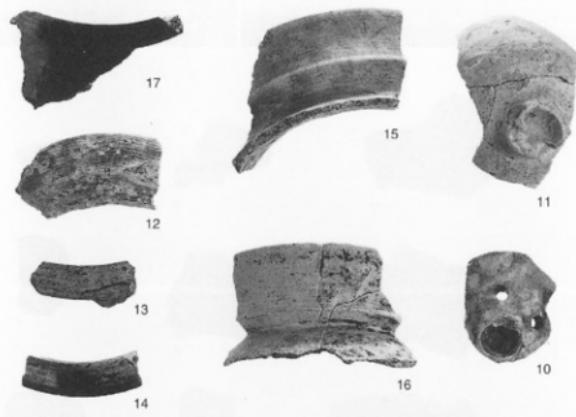
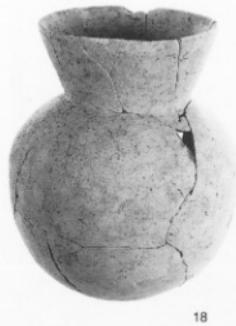
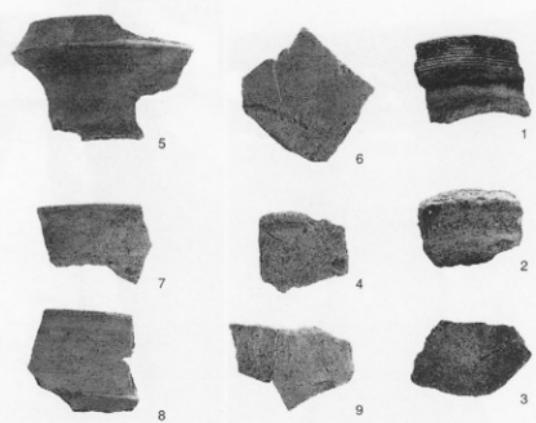


和田屋喜山地区

△トレンチ 6 (東から)
▽トレンチ11 (北から)

△トレンチ 9 (南東から)
▽トレンチ17 (北西から)

△トレンチ10 (南から)
▽トレンチ20 (北から)



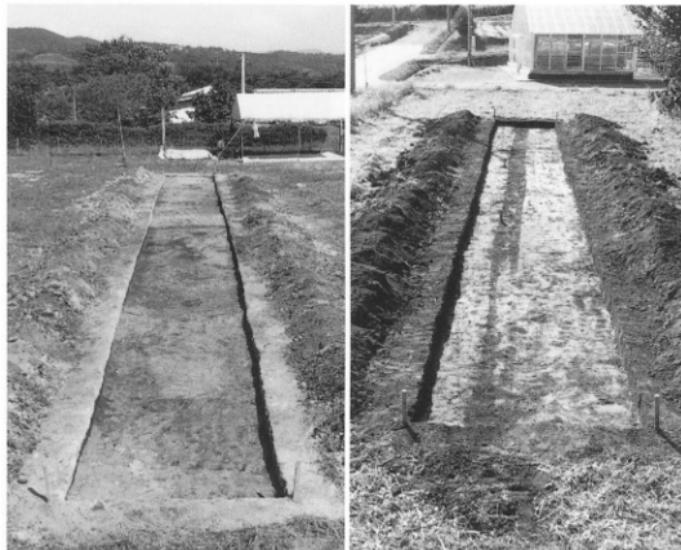
和田屋喜山地区

△トレンチ22（北から）

▽出土遺物

△出土遺物 1 : 3

図版 4



大谷茶屋地区△トレンチ 1 (西から) ▽トレンチ 2 (東から)

▽出土遺物 1:3



広瀬地区△トレンチ1 (北西から)

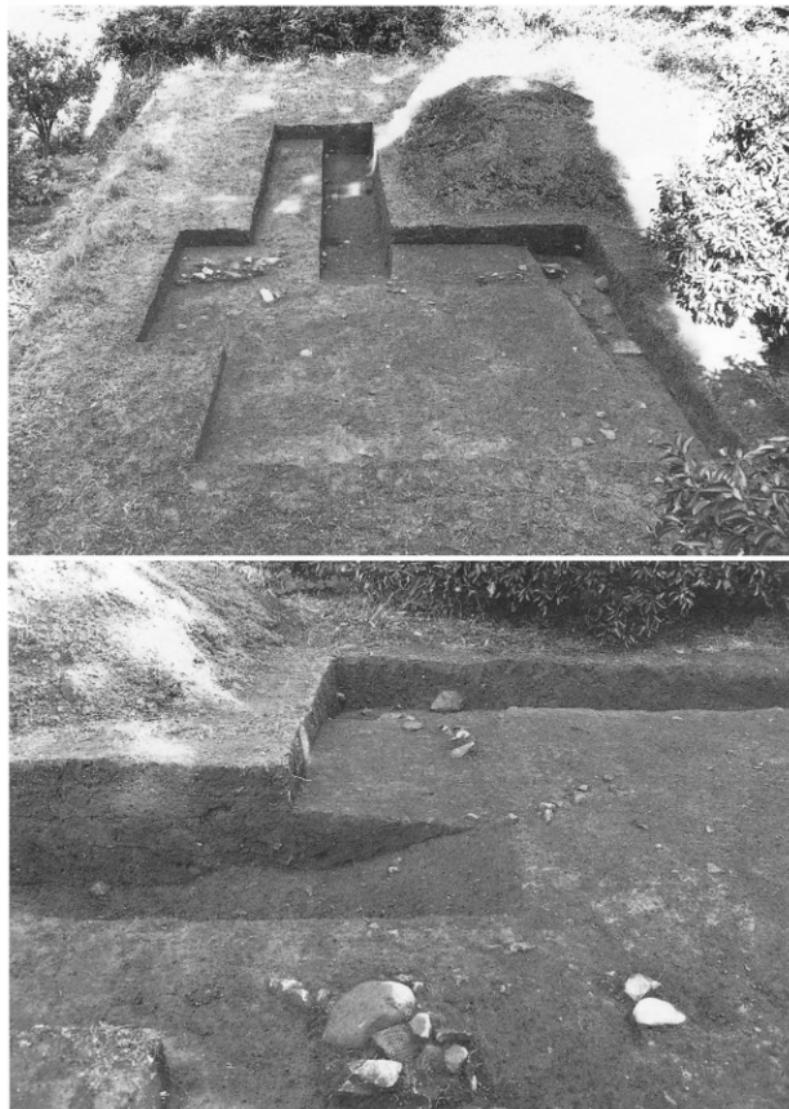
和田沼地区マトレンチ1 (北から)



△トレンチ3 (南西から)

マトレンチ2 (西から)

図版 6



大原廃寺（第7次）△トレンチ2 寺域北限の段差（南から）

▽トレンチ2 寺域北限の段差（西から）

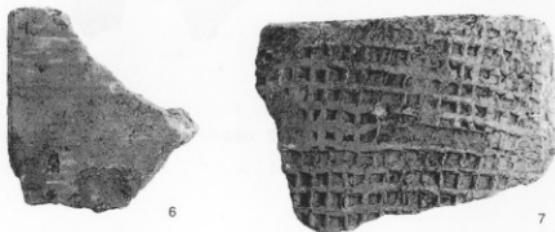
大原廃寺（第7次）

トレンチ 3

（南から）

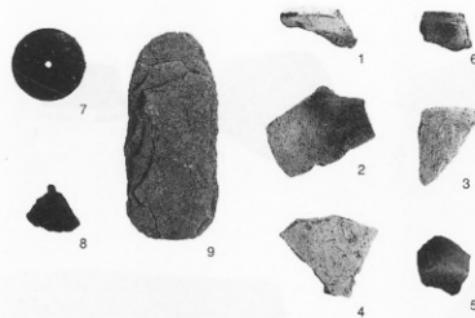
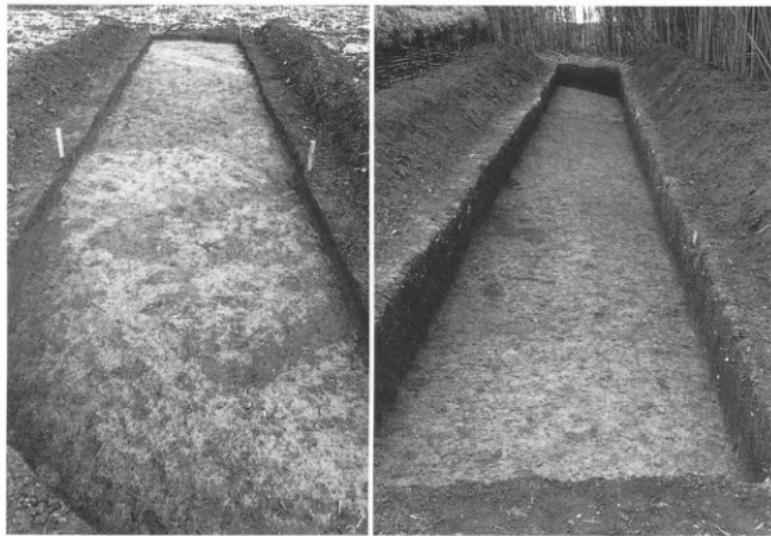


出土遺物 1 : 3



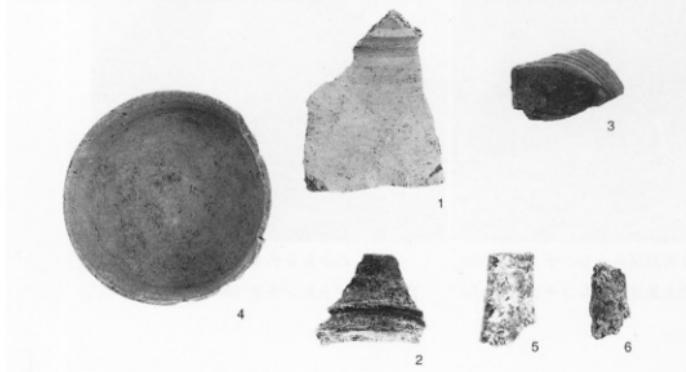
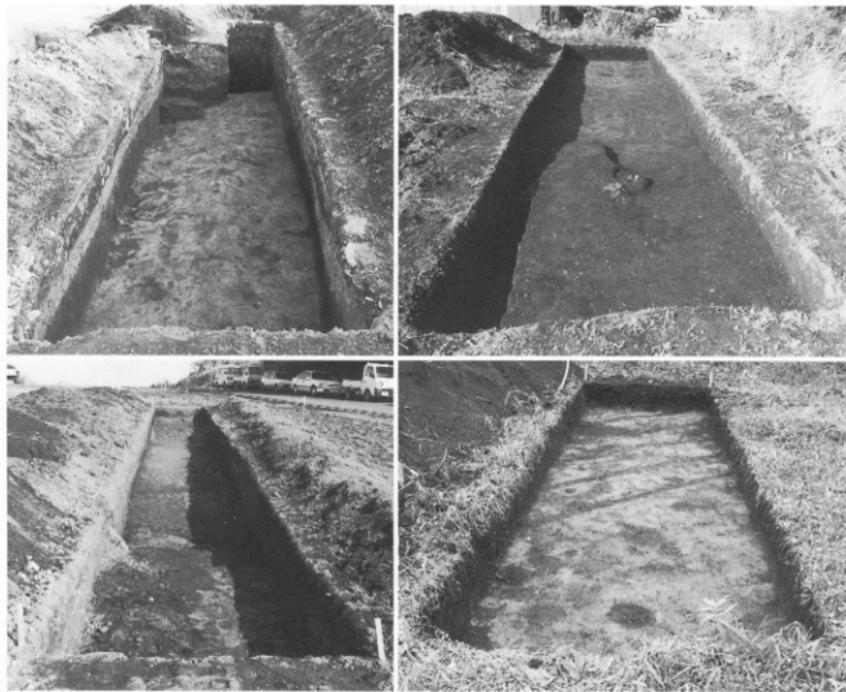
出土遺物 1 : 3

図版 8



谷・津原地区△トレンチ 2 (南から) ▽トレンチ 5 (北西から)

▽出土遺物 1 : 3



和田・不入岡地区△トレンチ1（北西から）▷トレンチ4（南東から）

下米積地区△トレンチ4（南から）▷トレンチ6（北東から）

▽出土遺物1：3

図版10

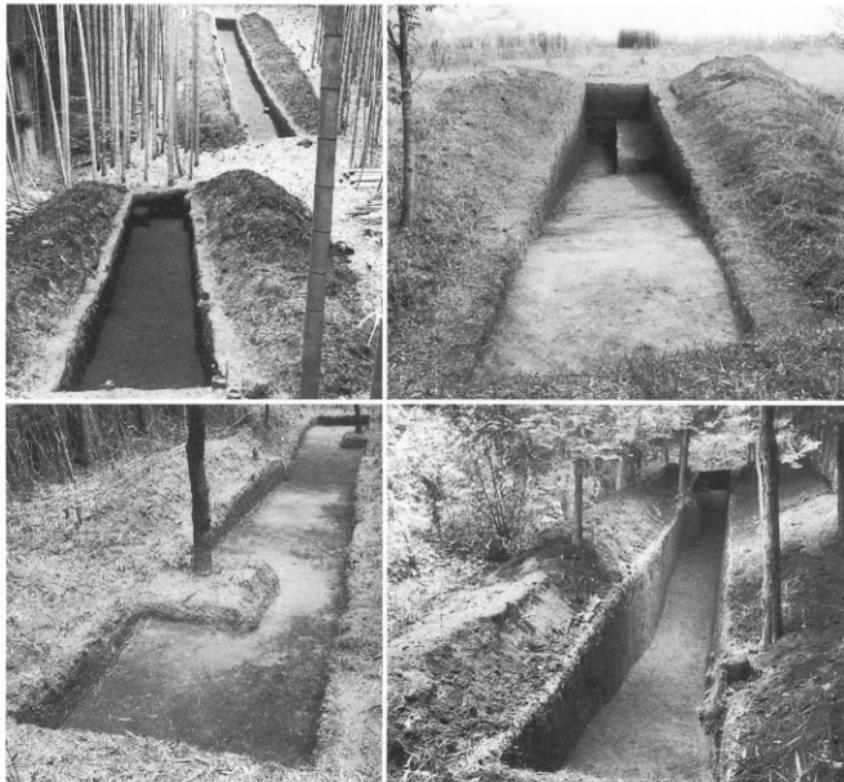


みどり町地区△トレンチ3（東から）

大谷水上地区マトレンチ2（東から）

△トレンチ4 溝状遺溝（南から）

富海地区マトレンチ2（西から）



和田西ノ谷地区

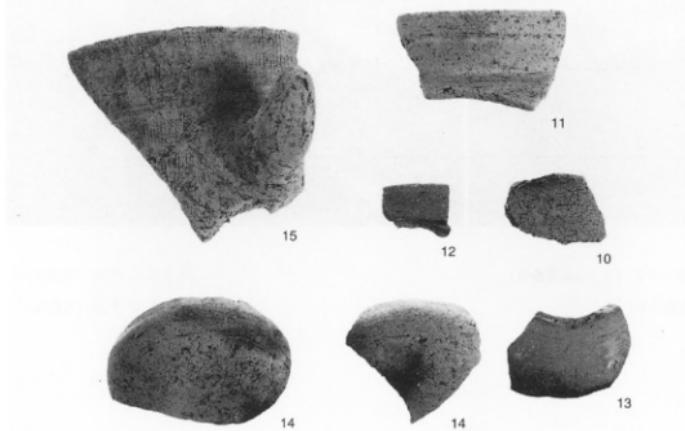
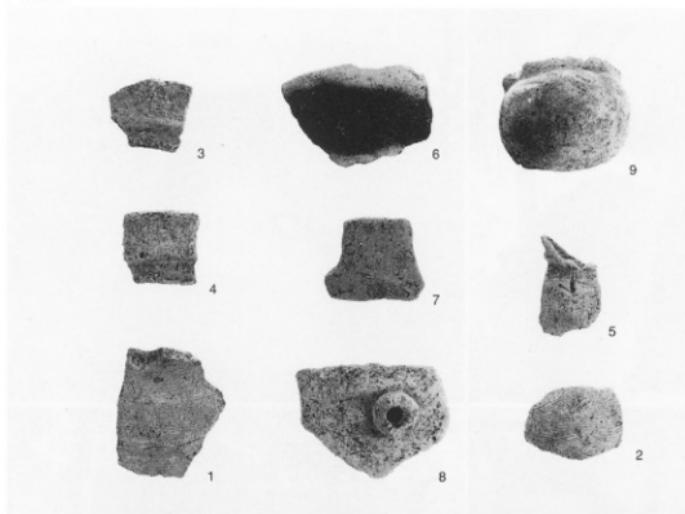
△トレンチ6（下）・7（上）（南東から）

▽トレンチ17（南東から）

△トレンチ16（北西から）

▽トレンチ20（北から）

図版12



和田西ノ谷地区出土遺物 1 : 3



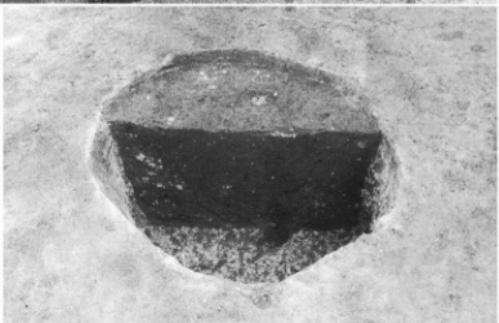
国府春日地区

トレンチ 1

SB058 (南から)



(南東から)



SB058 ピット12 (北から)

図版14



国府春日地区

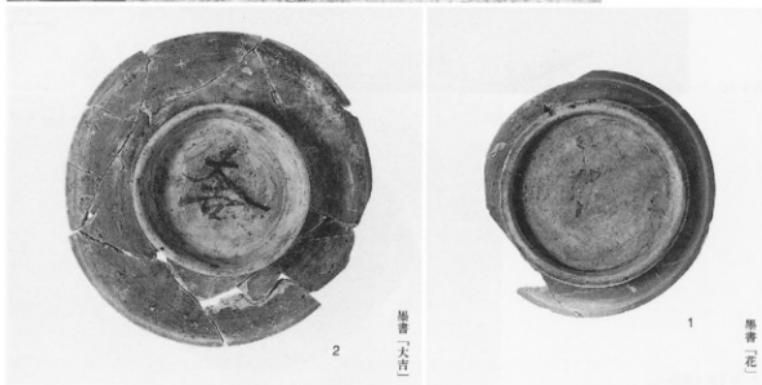
トレンチ7 SD051

(南から)



トレンチ7 SD051断面

(南から)

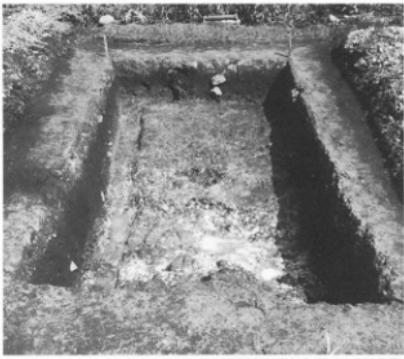


墨書「大吉」

墨書「花」

出土遺物 1 : 3

大谷向野地区
トレンチ 4—B
(南から)



トレンチ 6—A・B
(南から)



トレンチ 9
(西から)



図版16



大谷向野地区
トレンチ 6—A・B間
木製陽物出土状況

(東から)



トレンチ 6—A・B断面
(東から)



1



出土遺物 1 : 3

国府古神宮地区

トレンチ 1

(南から)



トレンチ 2

(南から)



出土遺物

1 : 3



1



3



5

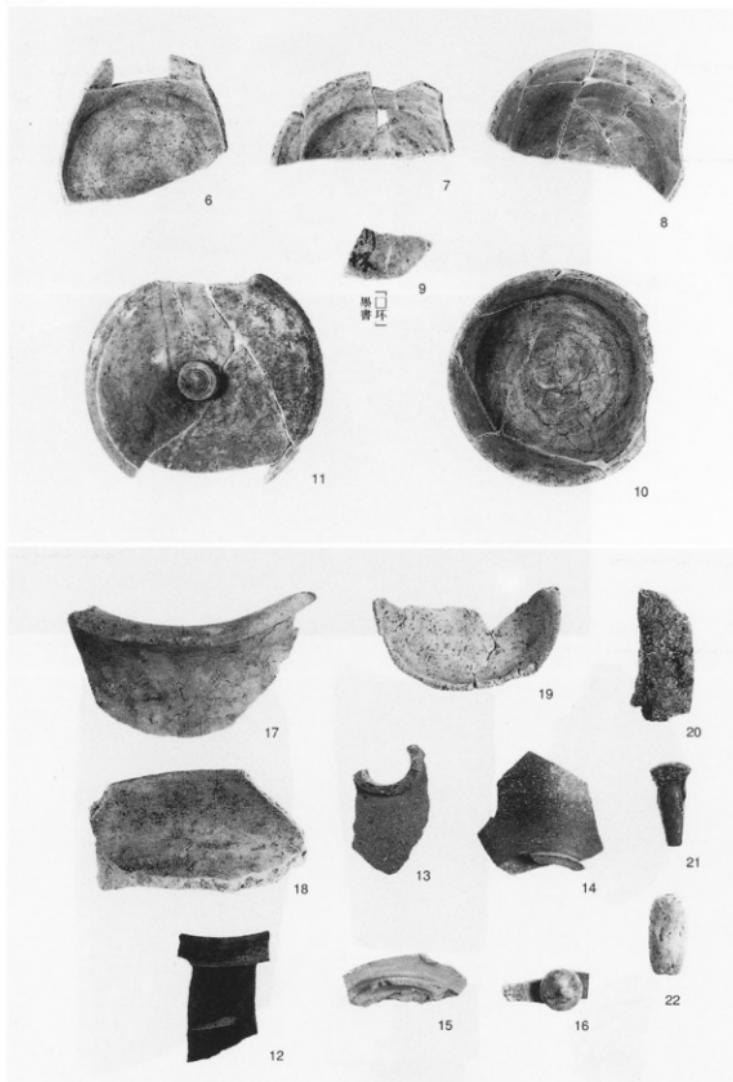


2



4

图版18



国府古神宮地区出土遺物 1 : 3



国府植木場地区

△トレンチ1 (北から)



飼地区

△トレンチ1 (南から)



飼地区

△トレンチ2 (南から)

平成11年度調査

地区名	図版No.	遺物名	出土位置	地区名	図版No.	遺物名	出土位置
和田屋喜山	3 - 1	弥生土器 壺	T 2	大谷庵寺(第7次)	8	土師器 高环	T 1
	2	弥生土器 壺	T 2		9	土師器 高环	T 1
	3	弥生土器 壺	T 2		7 - 1	土師器 环(糸切り底)	T 2
	4	弥生土器 高环	T 2		2	土師器 高台付环(糸切り底)	T 2
	5	土師器 壺	T 2		3	土師器 壺	T 2
	6	土師器 壺	T 2		4	須恵器 壺	T 3
	7	土師器 壺	T 2		5	丸貫土器 羽釜	T 2
	8	土師器 壺	T 2		6	平瓦	T 2
	9	土師器 壺	T 2		7	平瓦	T 2
	10	弥生土器 高环	T 3		8 - 1	弥生土器 壺	T 7
	11	土師器 低脚环	T 3		2	弥生土器 壺	T 7
	12	弥生土器 壺	T 6		3	弥生土器 壺	T 7
	13	弥生土器 壺	T 6		4	弥生土器 壺	T 7
	14	弥生土器 壺	T 6		5	弥生土器 高环	T 7
	15	弥生土器 壺	T 18		6	弥生土器 壺	T 7
	16	土師器 壺	T 18		7	土製鉢輪車	T 3
	17	弥生土器 壺	T 22		8	石匙	未採
	18	土師器 直口壺	T 17		9	打製石斧	T 4
大谷茶屋	4 - 1	土師器 壺	T 1	下木横	9 - 1	土師器 壺	T 5
	2	土師器 壺	T 1		2	土師器 壺	T 5
	3	土師器 高环	T 1		3	土師器 壺(糸切り底)	T 7
	4	土師器 高环	T 1		4	須恵器 高环	T 5
	5	土師器 高环	T 1		5	壺具	T 4
	6	土師器 高环	T 1		6	壺具	T 4
	7	土師器 高环	T 1				

平成12年度調査

地区名	図版No.	遺物名	出土位置	地区名	図版No.	遺物名	出土位置
和田西ノ谷	12 - 1	弥生土器 壺	T 7	国府古神宮	17 - 1	軒丸瓦(伯耆國分寺630型式)	T 2
	2	弥生土器 壺	T 7		2	軒丸瓦(伯耆國分寺630型式)	T 2
	3	弥生土器 壺	T 7		3	丸瓦	T 2
	4	弥生土器 壺	T 7		4	丸瓦	T 2
	5	土師器 小型丸底壺	T 7		5	平瓦	T 2
	6	土師器 高环	T 7		18 - 6	土師器 壺	T 2
	7	土師器 高环	T 7		7	土師器 壺	T 2
	8	土師器 高环	T 7		8	土師器 壺	T 2
	9	土師器 ミニチュア土器壺	T 7		9	土師器 壺(墨書き)	T 2
	10	弥生土器 壺	T 20		10	土師器 壺	T 2
	11	土師器 壺	T 20		11	土師器 壺	T 2
	12	土師器 壺	T 20		12	弥生土器 壺	T 2
	13	土師器 壺	T 20		13	須恵器 壺	T 2
	14	土師器 壺	T 20		14	須恵器 壺	T 2
	15	壺	T 20		15	須恵器 高台付环	T 2
国府春日	14 - 1	土師器 高台付环(墨書き)	T 2		16	須恵器 壺	T 2
	2	土師器 高台付环(墨書き)	T 7		17	土師器 壺	T 2
大谷向野	16 - 1	木製陽物	T 6A・B		18	土師器 壺	T 2
	2	壺串	T 6A・B		19	手捏土器 血	T 2
	3	壺串	T 6A・B		20	壺具	T 1
	4	木模型木製品	T 6A・B		21	壺具	T 1
	5	竹木宋製品	T 6A・B		22	土錐	T 2
	6	壺串	T 6A・B				

報告書抄録

書名	食吉市内遺跡分石面各種報告書						
著者名	_____						
巻次	11						
シリーズ名	食吉市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第108集						
著者名	森下哲哉・加藤誠司・岡本智明・岡本拓也						
編集機関	食吉市教育委員会						
所在地	〒682-8611 鳥取縣食吉市櫛町732番地 THL6858-22-4418						
発行年月日	西暦2001年3月19日						
所蔵遺跡名	所 在 境	コ ー ド	北 緯	東 緯	調査期間	調査面積 (m)	調査 原因
		古町村：遺跡記号					
福山寺遺跡 3次調査	食吉市福山寺根町 5-1 福山寺	31203 : 3 NYF- 3	35°25'32"	133°46'36"	19990420～19990513	152	
和田遺跡舟屋宮山遺跡	食吉市和田舟屋宮山、寺谷字尻原	31203 :	35°26'50"	133°48'25"	19990520～19990605	1472	
イザ原遺跡	食吉市大谷基屋字イザ原	31203 :	35°26'45"	133°48' 5"	19990831～19990903	90	
大原魔寺跡 7次	食吉市大原字魔寺ノ谷、谷井井口	31203 : 6 UOO- 7	35°25'01"	133°51'38"	19991013～19991105	110	
芦原遺跡	食吉市芦原字野原、小坂、五輪堀	31200 :	35°28'40"	133°45'36"	19991115～19991203	190	
伏べり遺跡 3次調査	食吉市赤田字伏べり、本人字伏火良彌、伏べり	31203 : 3 NBS- 3	35°26'27"	133°48'54"	19991206～19991233	77	
船舟遺跡	食吉市下木程字船舟、上乳母子谷、上木程字船舟・植枝、下福田字 大曲、藍谷、ソリ曲、老村前	31203 : 4 OSP	35°25'26"	133°45'40"	19991215～20000112	144	
宮ノキル遺跡	食吉市みどり町字宮ノキル	31203 :	35°25' 8"	133°49' 3"	20000428～20000511	115	
和田遺跡御西ノ谷遺跡	食吉市和田字御西ノ谷	31203 :	35°26'45"	133°48'36"	20000522～20000728	793	
田中ヶ丘遺跡	食吉市南治字神日	31203 : 6 HHK-北	35°25'50"	133°47'30"	20000630～20000819	593	
内野遺跡 2次調査	食吉市大谷字向野、森掛、森谷	31203 : 6 TOM- 3	35°25'50"	133°47'10"	20000817～20001011	442	
鈴置寺前須佐遺跡Ⅰ 大森塗・古神宮地区	食吉市須佐字吉野	31203 :	35°25'58"	133°47'36"	20000818～20000908	74	
高森遺跡	食吉市高字高森	31203 :	35°27'34"	133°46'15"	20000107～20001027	71	

食吉市における各種遺跡の位置に付する審議の分類と調査

210.2
Kur.
(148)

図書館

所 在 県 等 名	種 别	主な時代：主な遺構	主 な 考 古 物	特 記 事 項
福田寺遺跡 3次調査	集 落	弥生～内地：浜状遺構	弥生土器・土師器・須恵器・石器・陶みみ	弥生中期の墓葬。
和田遺跡群黒岩山遺跡	集 落 古 墓	弥生～古墳：竪穴式住居13棟 古墳 3基	弥生土器・十輪器・須山器・陶器・磁器・鉄製品・骨器・石器 サヌカイト剥片・黒珊瑚石剥片・瓦石・鐵石・磨石・炭化物	黒岩山内埋葬。弥生時代の集落を検出。
イガ原遺跡	集 落	古墳：竪穴式住居1棟	弥生土器・土師器・須恵器	古墳時代の住居。
大原庵寺跡第7次	寺 院	奈良：寺域北側の段	瓦・土加器・須恵器・上部質土器・北質土器	寺域北側の落ち段を複数。
高原遺跡	集 落	傳承：竪穴式住居	弥生土器・土師器・須恵器・丸質土器・陶器・紡錘 車・石斧	
引ベリ遺跡3次調査	集 落	弥生：竪穴式住居	弥生土器・土師器・須恵器・石器・鐵石・炭化物	
船津遺跡	集 落	弥生～古墳：土塹 溝 2基 1条	弥生土器・十輪器・須山器・土輪質土器・陶器・棄 員・鉄製品・石器・珊瑚石・黑珊瑚石・鐵石・炭化物	古墳時代の墓系。
宮ノ平ル遺跡	集 落	中世：溝	土師器・全質土器	内地時代の集落址。中世の痕跡。
和田遺跡群ノ谷遺跡	集 落 古 墓	古墳：竪穴式住居4棟 古墳 4基	弥生土器・土師器・須恵器	古墳時代の古墳と集落。
因分寺北遺跡	官署掘遺	奈良～平安：獨立性建物1棟 溝 1条	土師器・須恵器・瓦・鉄製品・石器	国指定史跡鶴齋因分寺跡の北側耕作地の調査。奈良・平安時代の東西棧棚立柱建物SD062と南北溝SD051を検出した。
向野遺跡2次調査	官署開発 集落	難波～平安：溝 3条	木製品（落ち物・堆物・糞便）・土師器・須恵器・陶 器・瓦	国指定史跡鶴齋因分寺跡の北に隣接する谷部分から木製筋 祀瓦が出土し、國府との関連が示唆される。
伏見区府間遺跡跡第1 次・古神宮地区	官署開発	奈良：上層 1基	土師器・須恵器・軒丸瓦（約直径5-630mm）	奈良時代の土塙地。
高畠遺跡	古 墓	古墳：古墳 1基		墳丘が削平された古墳の回復。

倉吉市内遺跡分布調査報告書11

平成13年3月19日 印刷

平成13年3月19日 発行

編集 倉吉市教育委員会

印刷 賢美印刷株式会社